

五稜郭タワー株式会社

～ 過去の災害経験・被害状況・教訓 ～











■ 北海道南西沖地震(奥尻島の様子)

函館から直線距離で110kmにある奥尻島という島の、北側の沖合が震源でした。

営業中の発生ではなかったのですが、お客様に影響はありませんでしたが、展望台へのエレベーターのレールが曲がり数日間営業ができないという被害が発生しました。

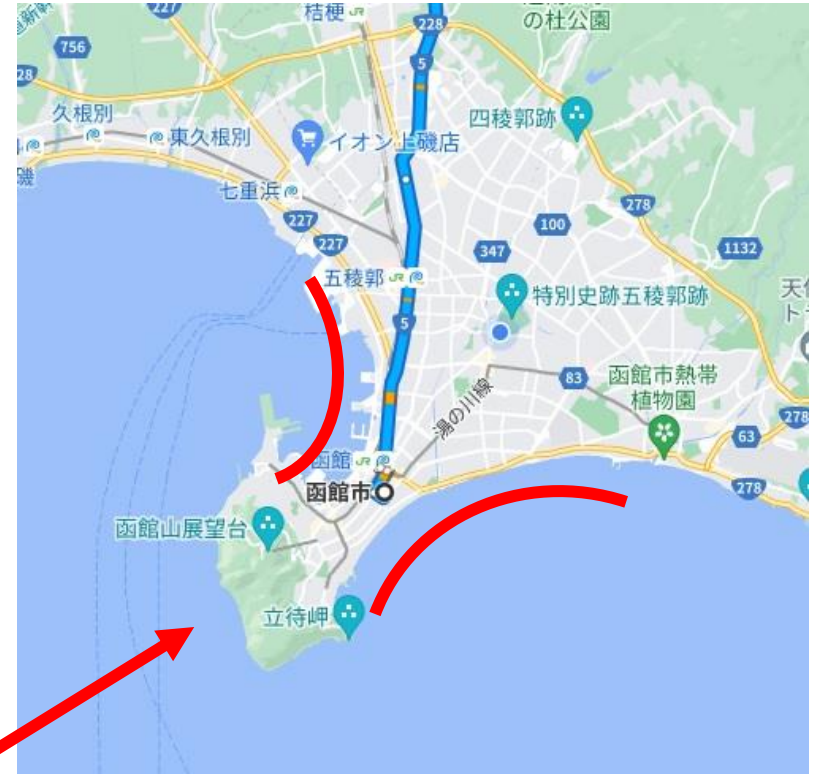
■ 有珠山噴火

五稜郭タワーの建物自体が壊れるなどの被害はありませんでしたが、当時はニュース番組やラジオがお客様の情報源でしたので、北海道以外のお客様からの問い合わせでは、五稜郭タワーから有珠山が見え、すぐそばで噴火していると思っていた方が多くいたようです。

函館市から有珠山までは170km(車で2時間半)離れていて、函館の地形と渡島半島の地形を勘違いされていた方が多かったかもしれません。

お客様は2割減少しました。

この災害が、当社の危機管理意識を上げる機会になりました。



■ リーマンショック

自然災害ではありませんが、リーマンショックも影響がありました。

平成18年に2代目となる新しい五稜郭タワーが建てられ、多くのお客様がお越しになり賑わっていたのですが。2年後にリーマンショックが発生し、その影響が徐々に表れ。最終的には1割のお客様が減少しました。

■ 東日本大震災

函館は震度6弱でした。

この時は、営業中に地震が発生、建物は多少揺れを感じる程度で、エレベーターが非常停止をすることもなく、従業員やお客様が慌てることもなく、避難誘導をするに至りませんでした。原発事故の影響も重なり、リーマンショック以前に比べ約3割のお客様が減少しました。

建物の耐震構造と制振機能の凄さを感じました

■ 北海道胆振東部地震

北海道の厚真町を震源として発生、北海道全域が停電となりました。
信号機が動かない中、従業員が出勤し、在庫している食料品を観光のお客様や近隣の方々へ提供したり、休業の対応に当たりましたが、翌日電力が回復したため、通常営業をすることができ、被害は軽微でした。

また有珠山の時と違い、インターネットやSNSの発達により、お客様は被害の大きい地域と少ない地域を把握しやすかったのか、影響は軽微でした。

新型コロナウイルス

2020年1月～2022年3月

2年間	730日中
休業	242日 (3分の1)

教訓

観光業は 災害や情勢など外的要因に左右される・・・不安定・・・脆弱・・・

持続可能にするために



従業員の生活の安定・商品・社内留保が必要

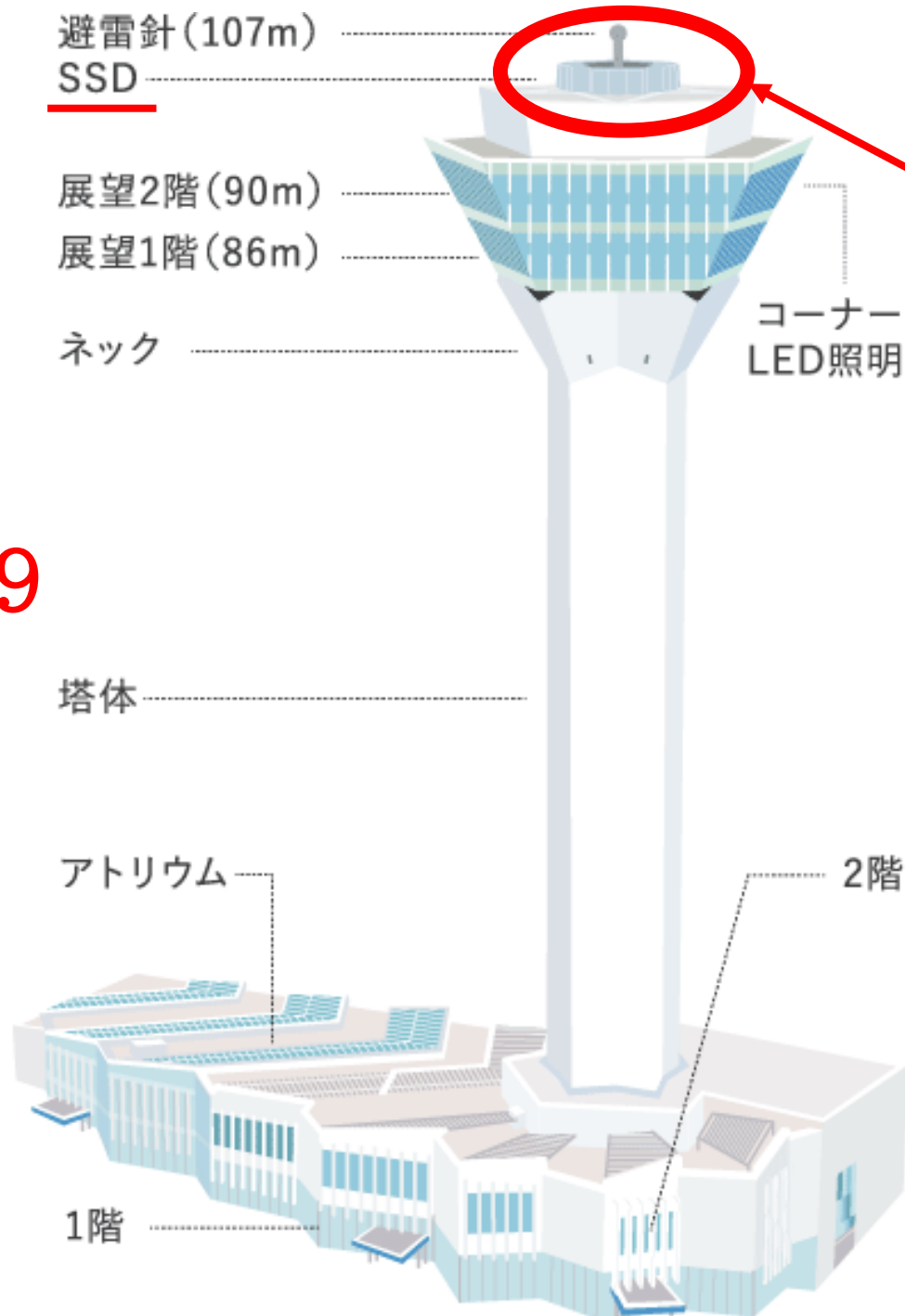


『人・物・金』が揃って 持続可能

**日常から危機意識を持って 先を見越し
良い時ほど浮かれることなく
最大限 従業員へ還元（人材）を行い
取引業者と信頼構築（商品＝物）
いつか起こるその時のために 無駄遣いをせず
蓄えられるだけ 蓄える（お金）**

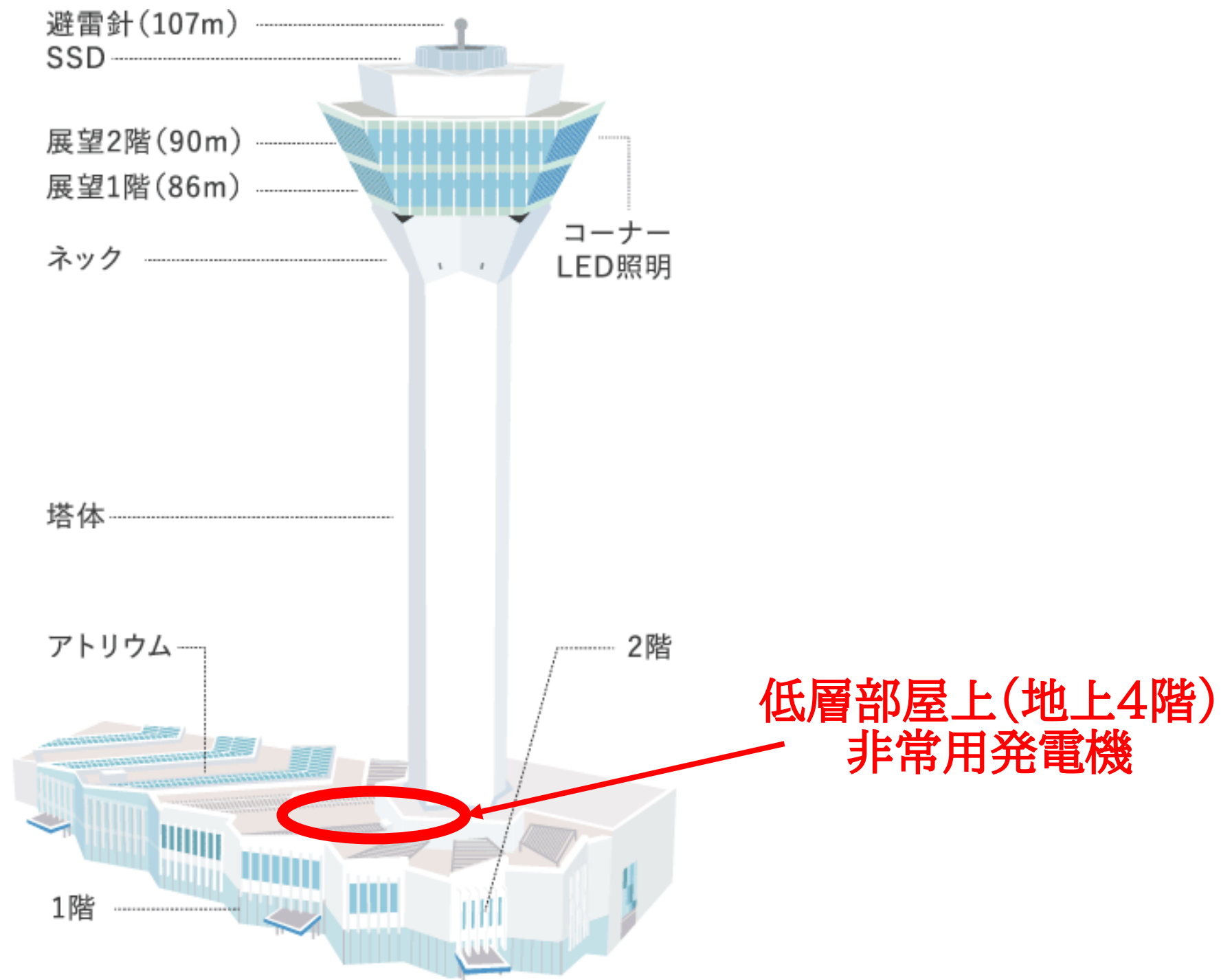
これに尽きます！

耐震
震度7
マグニチュード9



制振(水タンク)





みんなが
451段
無理せずにも
のぼってね★



GO太くんも
頑張っていますよ!

五穀類タワー 開業の日
階段のぼりチャレンジ!

スタート地点
いよいよスタート

1 段目











模本

一に

川
むらとを
十一
なり



煙をためて水をたひ
中継に流しき物あれば
初にも買取り

HAKODATE FIRE DEPT.

HAKODATE FI

地震や停電を想定した エレベーター緊急停止訓練

- ① エレベーターに従業員を乗せて、実際に動かします。
- ② 人為的に、地震感知装置を作動させたり、ブレーカーを落として停電の状況を作り、エレベーターを緊急停止させます。
- ③ 停止後、エレベーター内のお客様対応の訓練をします。
- ④ 地上では、エレベーターを戻す操作の訓練を行います。